



## PRESS RELEASE

### JR芸備線（備中神代駅－備後庄原駅）の

### 再構築協議会の組織に関する意見聴取への回答について

このことについて、国土交通省中国運輸局に対し、次のとおり回答いたしました。

- ① 地域公共交通の活性化及び再生の促進に関する基本方針二の三の協議会その他協議会（以下「活性化協議会等」）において協議を行うか、再構築協議会での協議に参加するかの別

【回答】

地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき要請があれば、再構築協議会での協議に参加する。

- ② 活性化協議会等で協議する場合はその理由  
該当なし
- ③ 地域交通法第29条の3第5項第4号又は第6号の構成員として適切と考える者がある場合、その者の名称及び当該者が適切と考える理由  
なし

- ④ その他再構築協議会の組織等に関する意見

【回答】

- ・ローカル鉄道に関する議論は、路線の一部区間を対象として議論を行うのではなく、広域移動のほか、沿線地域のまちづくりや観光を含めた地域活性化など、様々な観点からネットワーク全体で議論が行われる枠組となることが望ましいと考える。
- ・JRの広域ネットワークは、内部補助により採算が確保できるよう制度設計された国鉄改革の経緯や、路線の適切な維持を求めた大臣指針を踏まえ、国の交通政策の根幹に関わる問題であることから、まずは、国において、鉄道の広域ネットワークの方向性をはじめ、内部補助や鉄道の特性の考え方を示していただきたい。

## 本件に関するお問い合わせ

庄原市生活福祉部地域交通課

電話 0824-73-1156

担当者：下森、神田

FAX 0824-72-3322

問い合わせ先  
令和5年11月27日  
課名：交通対策担当  
担当者：瀬戸  
直通電話：082-513-2584

JR芸備線に係る意見聴取への回答について  
(知事コメント)

- 本日、広島県は、中国運輸局による再構築協議会の組織に関する意見聴取に対して、再構築協議会に参加する意向を回答いたしました。
- 本県としては、再構築協議会における議論に当たっては、庄原市域だけではなく、複数の市町にまたがる移動の形態を考慮するため、一部区間だけでなく、広域的な観点から、ローカル鉄道である芸備線と沿線地域の活性化を含めた幅広い議論がされるべきと考えております。
- このため、庄原市以外の全沿線市とも、芸備線の広域的な取組について議論ができるよう、引き続き調整する必要があるため、国においてもご協力いただくよう、併せて意見したところでございます。
- 今後、当該調整状況に応じて、中国運輸局において意見聴取を行った上で、再構築協議会の組織が決定されることと想定されますが、本県としては、広域的な観点から、芸備線と沿線地域の活性化を含めた幅広い議論が行われるよう、様々な関係者と協力しながら、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。
- また、国に対して、「内部補助の枠組整理を踏まえた全国的な鉄道ネットワークの方向性」や、JRの代替交通への責任などの「実質的な持続可能性」について、可能な限り早期に整理いただくよう、併せて意見いたしました。

# 「再構築協に他市も参加を」

## 参加意向の県が国に要望

### 線路は 続くか



芸備線

広島・岡山両県を走る芸備線の一部区間について、存廃も含む協議を行う「再構築協議会」。国から参加するかどうかなどを問われていた、両県と広島県庄原市、岡山県新見市は回答期限の27日、いずれも参加の意向を示した。国は再構築協議会を設置する考えで、正式に決まれば全国初。自治体側は、地元の見解の十



JR西日本が再構築協議会の設置を要請した芸備線の区間

分な反映や、沿線の街づくりなど広域的な観点の議論

を望んでいる。

広島県は参加の回答に際し、対象区間外の芸備線の沿線自治体の参加を求める意向を明らかにした。

県は庄原市と隣接し交流人口の多い同県三次市や、庄原市に向かう観光客の起点となる広島市にも再構築協議会の構成員として国へ推薦する方向で最終調整をしている。また、三次市と広島市の間にある同県安芸高田市なども、地元の対策協議会を通じて協力を図るといふ。

また、JRの内部補助を踏まえた全国的な鉄道ネットワークの方向性や、代替交通へのJRの責任につい

て国が早期に示すように注文を付けた。湯崎英彦知事は「広域的な観点から、沿線地域の活性化を含めた幅広い議論がされるべきだと考えている」とのコメントを出した。

庄原市も広島県と同様、国に鉄道網の方向性を示すよう求め、沿線を含めた広域的な議論が望ましいとした。市の担当者は「再構築協議会は国が主体的に関わっていく枠組みだと考えている。地元自治体と鉄道事業者だけでなく、広い視点での議論を求めていきたい」と話した。

一方、岡山県と新見市は岡山県内の区間については従来の枠組みでの協議を希望するが、再構築協議会が設置されれば参加する意向

を示した。

両者は新見市がかねて設置している法定協議会「新見市地域公共交通会議」での議論を提案した。理由として「芸備線が同市の交通体系の骨格をなすため、市全体への影響を考慮する必要がある。維持や活性化について、国の関与を受けながら幅広く協議するのが望ましい」とした。

その上で県や新見市の意見が十分に反映される協議体制にするとともに、市全体に与える影響に配慮するよう求めた。ある岡山県幹部は「『再構築』が意味するのは詰まるどころ、バスなどへの転換と受け止め」と話した。  
(原口晋也、磯部修作、黒田陸、西本秀)

# 2県2市が参加姿勢

## JR芸備線の再構築協

### 国、年度内にも設置方針

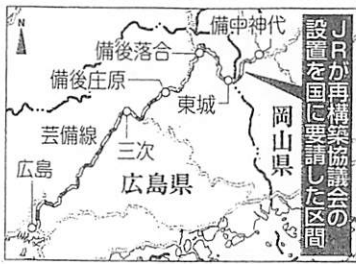
利用が低迷するJR芸備線備後庄原―備中神代間を巡り、広島、岡山両県と沿線の庄原、新見両市は27日、存廃を議論する「再構築協議会」に参加する姿勢を中国運輸局に伝えた。これを受け、運輸局は年度内にも協議会を設置する方針。ただ、岡山側は既存の法定協議会での議論が望ましいとしており、調整が続きそうだ。

(河野場、小島正和、中島大)

### 鉄路の

### あす

運輸局は4県市に再構築協議会への参加意向などを聴取し、この日が回答期限だった。広島県と庄原市は回答文で「参加する」と明記。岡山県と新見市は同市全体が対象となる法定協議会「新見市地域公共交通会議」を希望した上で、「再構築協議会が設置された場合は参加する」とし



また広島県の湯崎英彦知事は「広域的な観点から幅広い議論がされるべきだ」とのコメントを発表し、芸備線的全沿線市が協議に加わる必要性を指摘。庄原市の木山耕

三市長も「さまざまな観点からネットワーク全体で議論される枠組みが望ましい」とコメントした。

県によると、沿線の広島、三次両市が参加に前向きな一方、安芸高田市は参加しない姿勢を示しているという。運輸局は「再構築協議会を設置する方向で調整する」とし、早ければ年度内に協議を始める方針を明らかにし

た。再構築協議会を巡っては、JR西日本が10月に設置を全国で初めて国に要請。設置されれば鉄道として存続させるか、鉄道を廃止してバスなどに転換するかを原則3年以内